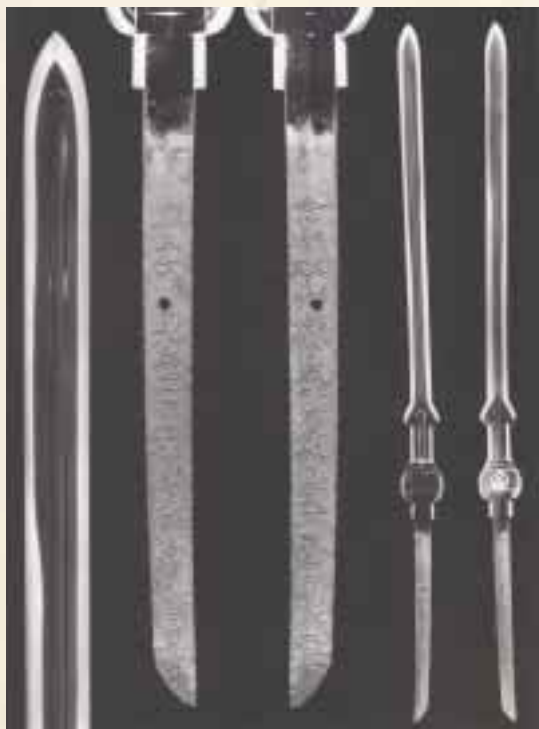


## まつられた「宝剣」

岡山県では備前長船（現・瀬戸内市長船）や備中青江（現・倉敷市酒津付近）で作られた刀剣がよく知られています。岡山県西部に位置する備中国では良質の鉄と高梁川などの清流に恵まれており、平安時代末期以来、作刀が盛んでした。しかし、青江の刀鍛冶は南北朝時代以降には衰えてしまいました。



岡山県指定重要文化財  
宝剣 銘国重(ほうけん めいくにしげ)  
(銘「備中松山城内奉納宝剣為天下泰平国家安全」  
「城主氏水谷左京亮藤原勝宗 水田国重」)天和3年(1683)  
高梁市蔵／八重籬神社旧蔵 3口

宝剣の作者水田国重が属した国重派の刀鍛冶は青江鍛冶の系統とも備後（現・広島県東部）出身の刀工の一派ともいわれ、戦国時代に入り、戦乱に明け暮れた武将たちを招かれ、備中荏原（現・井原市）、備中皆部、備中水田（いずれも現・真庭市）、備中松山（現・高梁市）などで作刀し、江戸時代にも多くの刀を作っていました。

この宝剣は天和三年（一六八三）、備中松山藩主水谷勝宗が備中松山城の修築を完成させたときに作らせ、「天下泰平」と「国家安全」を願ひ、国の守護神として十柱の神々(※1)をやどらせて天守二階の御社壇へ奉納したものです。以後、歴代藩主（水谷氏、安藤氏、石川氏、板倉氏）に国の守護として敬われ、継承されています。現在にいたつてい



宝剣拵(ほうけんこしらえ)  
天和3年(1683)  
高梁市蔵／八重籬神社旧蔵 3口

ます。剣の形が特殊であるため、特徴的な形をしています。明治維新後、廃藩置県となり、城も荒廃してしまいました。しかし、宝剣および拵は板倉家から八重籬神社に納められ、二段重ねの桐箱も特別に作られ、今日に伝えられています。

※1 十柱の神々—摩利支天・天照皇大神・阿部品八幡大菩薩を一口に、毘沙門天、成田大明神・下羽黒大権現・上羽黒大権現を一口に、高野大明神・多賀大明神・愛宕大権現を一口に宿らせていた。

※2 拵—刀に合った漆塗りの鞘や金具、柄巻などの装具のこと。

（文・歴史美術館学芸員 加古一朗）

